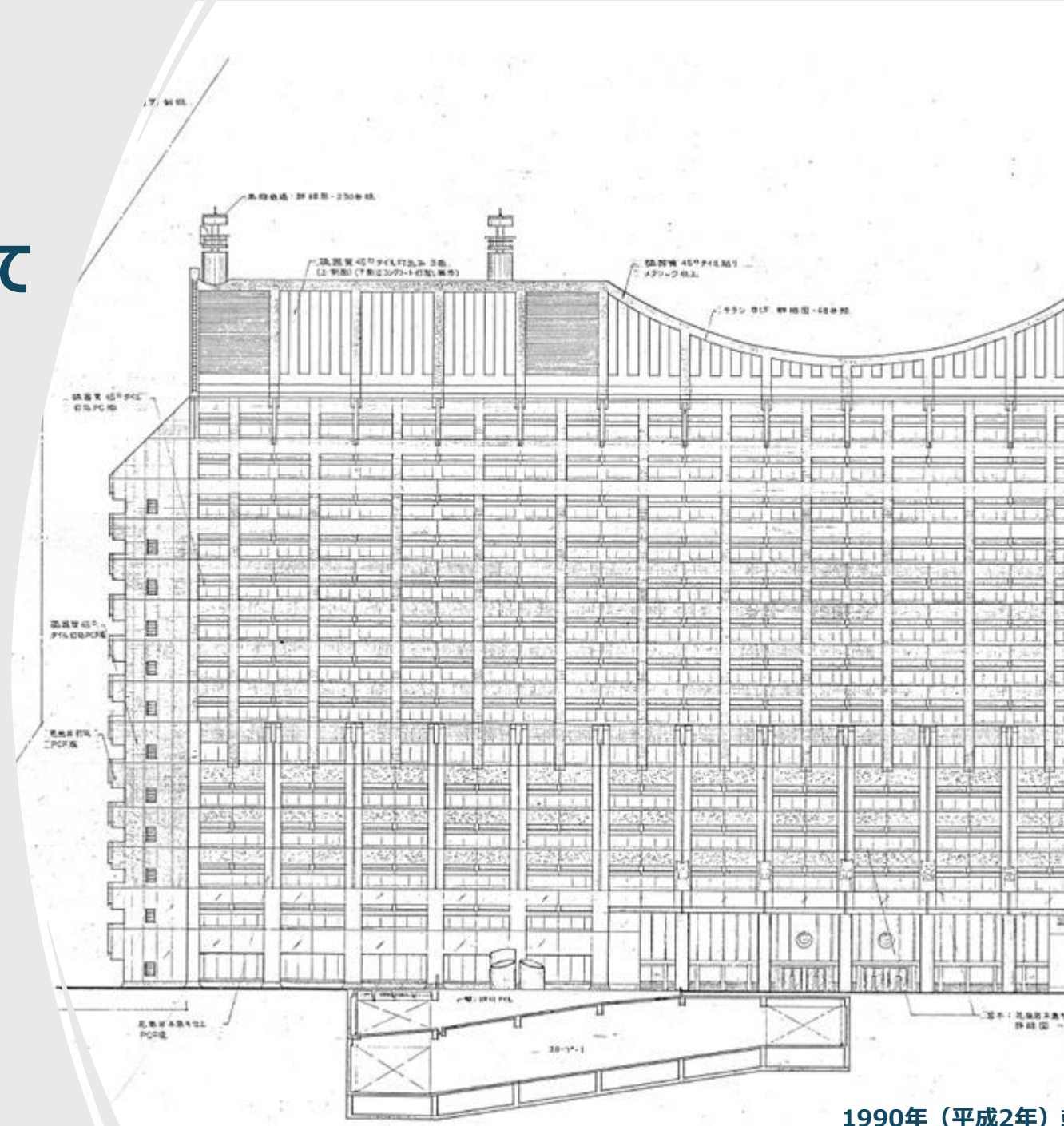


本庁舎（行政棟）改修の概要について

令和8年1月

 沖縄県総務部 管財課



1990年（平成2年）

本庁舎（行政棟）改修の概要

本庁舎（行政棟）改修の概要

1 事業期間 : R5～R12年度（8年間）

2 総事業費 : 220億円（R5試算）

3 改修工事 : R6～R12年度（予定）

4 改修の目的

- (1) 県庁舎の長寿命化
- (2) 省エネ化・法令対応
- (3) ユニバーサルデザインの拡充（誰でも利用しやすい多様性に対応した庁舎づくり）
- (4) 執務環境の改善

5 実施方法（居ながら工事）

本庁舎の長寿命化に向けて、既存の県有施設を仮移転先として活用し、本庁舎の機能を維持しつつ、庁舎内・庁舎外への仮移転を繰り返しながら、効率的、合理的、経済的な改修を行う。

※仮移転先：旧県立図書館、三重城合同庁舎、南部合同庁舎、本庁舎地下1階食堂跡、等

6 改修・仮移転期間：R8.1月～R12年度末（予定）

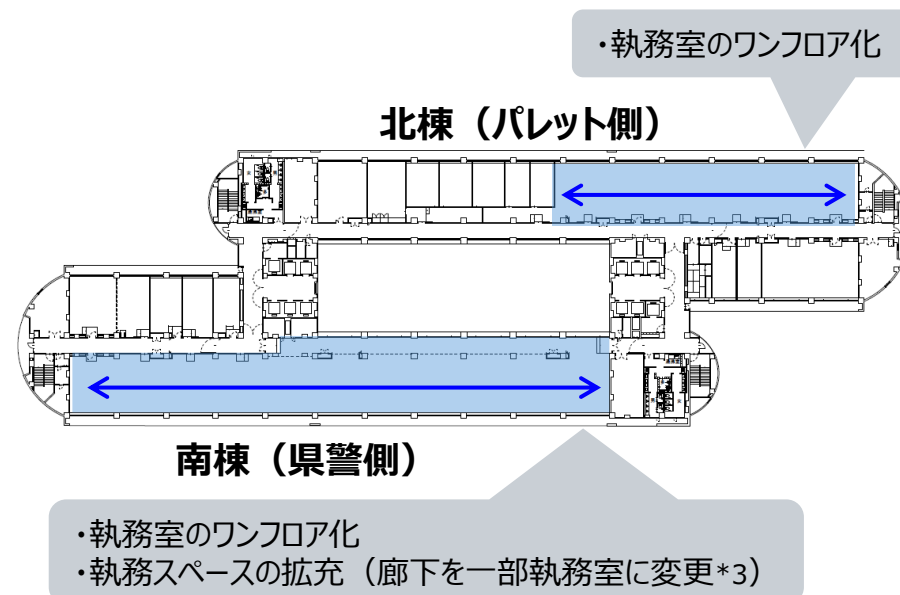
7 改修の具体例

目的	具体例
県庁舎の長寿命化	防水工事、屋外建具、配管類、空調設備、消防設備の更新など
省エネ化・法令対応	照明器具のLED化、天井の落下防止
ユニバーサルデザインの拡充	バリアフリー化、サイン計画（多言語化・ピクトグラム・色彩）、バリアフリートイレの拡充、トイレ構成の見直しなど多様性への各種対応
執務環境の改善	・執務室のワンフロア化 ・部局間の執務スペースの平準化 ・ユニバーサルレイアウト*の導入（デスクなどの什器の統一化） ・オープンスペースの設置（コミュニケーションの活発化、多様な働き方への対応） ※DX化による業務・手続の効率化、ペーパーレス化に向けた取組みとの連動を図る。

* ユニバーサルレイアウト

役職席を決めず横並びに配置し、デスクを横一列にするレイアウト。組織変更（人員の増減）に対応しやすい、オフィスのスペースを有効活用できる、テレワークなどの多様な働き方にも対応しやすいなどのメリットがある。

8 改修後のイメージ（基準階）



*3 対象フロアは7階～13階

改修後の主な変更点

改修後の主な変更点は以下のとおり

	項目	改修前	改修後	備考
施設の 利便性の 向上	照明機器	蛍光灯	LED	法令対応・省エネ化
	ユニバーサルデザイン	一部対応	ピクトグラム、多言語化、色彩計画	誰でも利用しやすい庁舎づくり
	多目的トイレ	・主に車いす利用者に対応 ・特定の階に設置	・オストメイト、多様な性などにも対応 (バリアフリートイレの導入) ・各階に2カ所ずつ設置	全体10カ所⇒29カ所に増設
	女性トイレブース	各トイレに2カ所	各トイレに4カ所	各階4⇒8カ所に増設
	温水洗浄付便座	多目的トイレにのみ設置	すべての便座に設置	節水型器具へ更新
	授乳スペース	なし	あり	沖縄県福祉のまちづくり条例
執務環境の 改善	廊下と執務室の間の壁	あり	南側（県警側）7～13階は撤去	執務空間の創出
	課と課の間の仕切り	あり	なし（ワンフロア化）	各課専用からフロア共有へ最適化
	什器（執務デスクなど） 座席のレイアウト	・規格・サイズが不統一 ・島単位でのレイアウト	・規格・サイズを統一 ・ユニバーサルレイアウト（統一レイアウト）	組織再編に迅速に対応 空間効率の向上
	オープンスペース	なし	あり	・多様な働き方に対応 ・連携強化による新たな取組の創出 ・民間事業者等との協働・共創の推進

長寿命化、省工ネ・法令対応（例）

長寿命化、省エネ・法令対応（環境負荷低減）

設備の更新 （長寿命化・省エネ化）

- ✓ 冷凍機、空調機、ポンプ、ファンの更新
- ✓ 年間電力消費量（2017年度比）
約540万kWh → 約505万kWh
- ✓ 削減量 約35万kWh（▲7%）

+

照明設備のLED化 （省エネ化・法令対応）

- ✓ 庁内すべての照明機器をLEDに更新
- ✓ 年間電力消費量（2017年度比）
約180万 kWh → 約71万 kWh
- ✓ 削減量 109万kWh（▲61%）

2017（H29）年度比 **エネルギー約22%削減**

✓ 年間電力使用量 **▲144万 kWh（▲22%）**

→ 電気料金換算 **▲4,560万円**

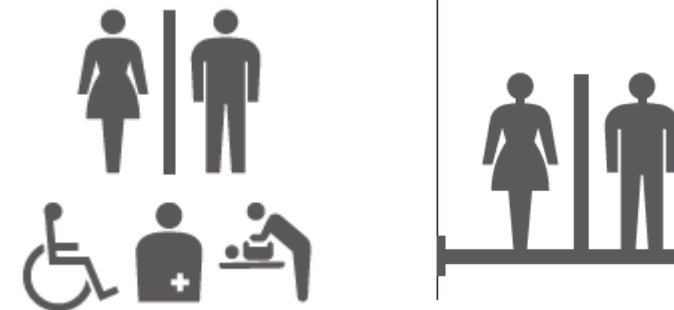
※2024（R6）年時点の単価：31.67円/kWhにて試算

→ CO₂排出量換算 **▲102万 kg-CO₂/年**

ユニバーサルデザインの拡充（例）

ユニバーサルデザイン・バリアフリー（サイン計画）

- ✓ 東西で色彩のコントラストを付け、利用者が分かりやすい庁舎へ
- ✓ 色覚異常の方へも配慮した色彩計画
- ✓ サインの多言語化により、利便性の向上を図る
- ✓ ユニバーサルフォントを用いることで、視認性の向上を図る
- ✓ JIS規格のピクトグラムを用いることで、直観的に理解できるサイン計画へ
- ✓ 階数表示に「しまくとぅば」を採用



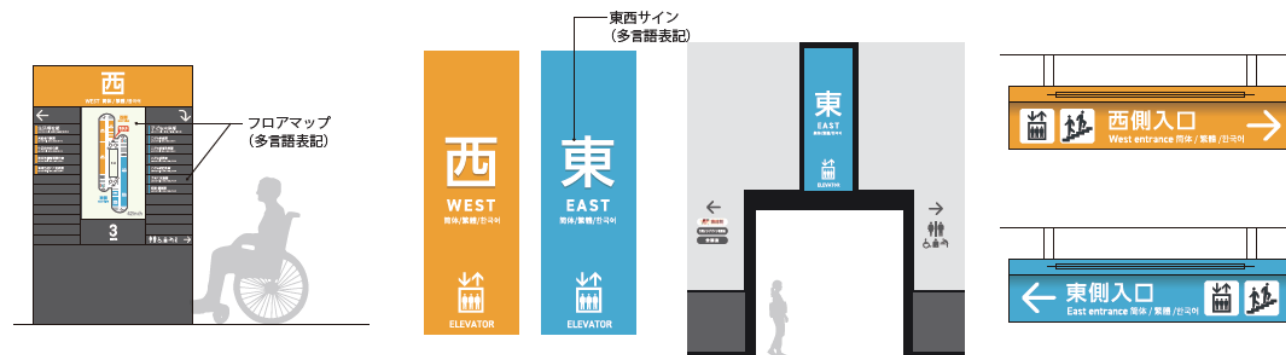
ピクトグラム（JIS規格）



サインの多言語化



しまくとぅば表記



利用者がわかりやすい色彩計画

ユニバーサルデザイン・バリアフリー（トイレ）

- ✓ バリアフリートイレを各階に2カ所ずつ設置
- ✓ 各階の女性トイレブースを2カ所ずつ増設（2⇒4カ所）
- ✓ 節水型便器を用いることで、使用水量を約1/2に削減
- ✓ 温水洗浄付便座の導入

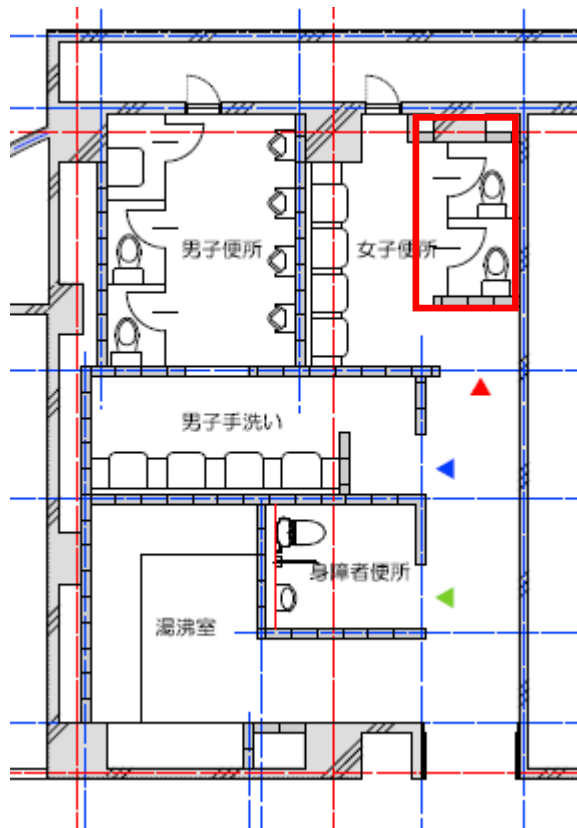
「バリアフリートイレ」

- ・車椅子使用者 ・発達障害など同伴が必要な人
- ・乳幼児連れの人 ・オストメイト使用者
- ・多様な性 などに配慮したトイレ

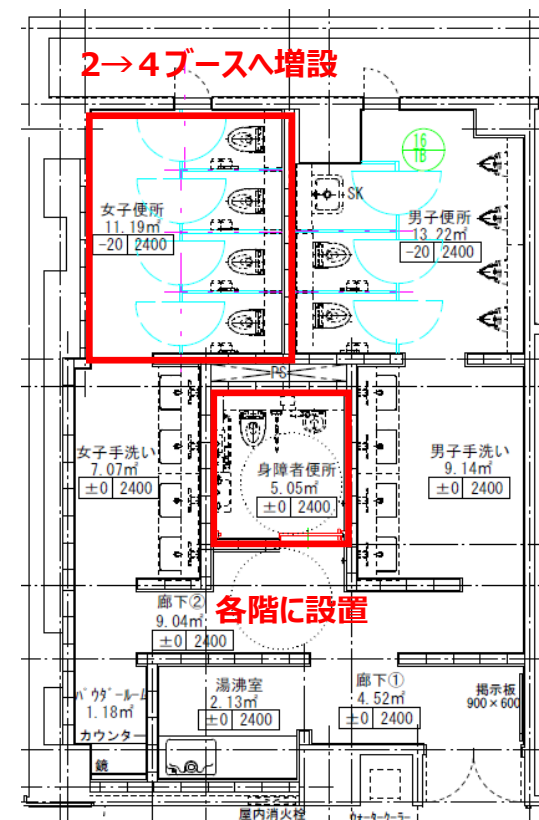
(イメージ)



▼トイレの構成の見直し



改修前



改修後

※ トイレは各階に東側・西側の2カ所設置されており、それぞれ構成の見直しを行います

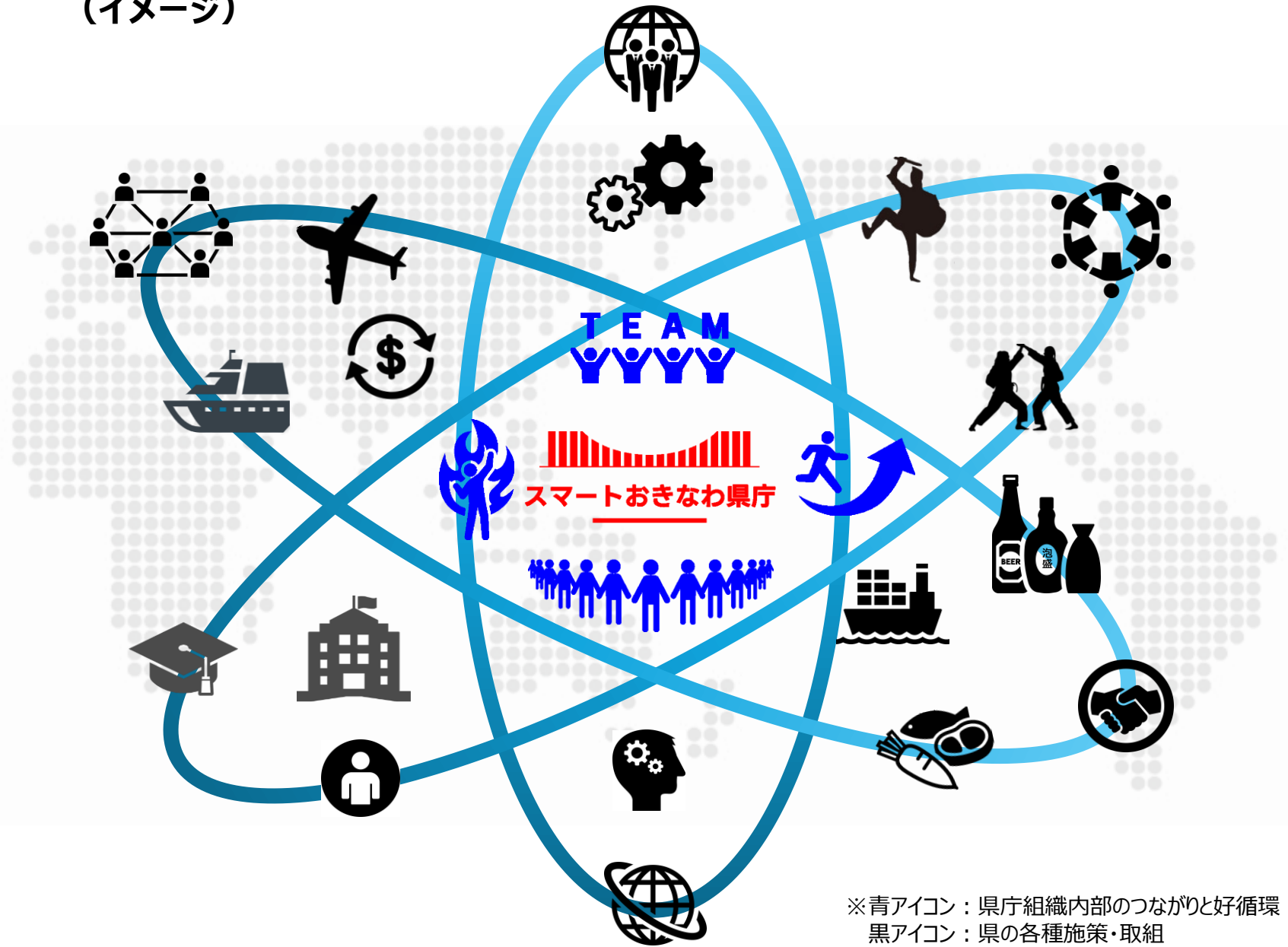
| オフィスコンセプト

新しい執務環境の オフィスコンセプト

つながりと共感

-つながりが共感を生み、未来を共創する拠点へ-

(イメージ)



※青アイコン：県庁組織内部のつながりと好循環
黒アイコン：県の各種施策・取組
青ライン：各分野とのネットワーク
背景の地図：県内外・世界とのつながり

執務環境の改善

—改修後の執務室のイメージ—

執務エリア全体イメージ

基準階PLAN

南棟（県警側） ※執務室と廊下の壁を撤去



マグネットスペース

自然と人が集まる
コミュニケーションエリア
※複合機、オフィス用品集約

執務スペース

ワンフロア化
ユニバーサルレイアウト
(仕様の仕様を統一化)

執務室と廊下の壁を撤去

車いすの通路幅にも配慮した通路幅

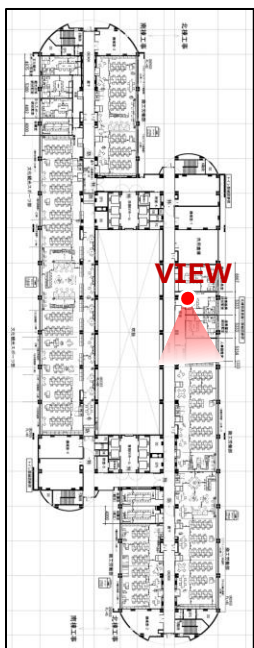
機能エリア

打合せスペース

執務エリア全体イメージ

基準階PLAN

北棟（パレット側）



マグネットスペース

自然と人が集まる
コミュニケーションエリア
※複合機、オフィス用品集約

執務スペース

ワンフロア化
ユニバーサルレイアウト
(什器の仕様を統一化)

※北側の廊下は維持

車いすの通路幅にも配慮した通路幅

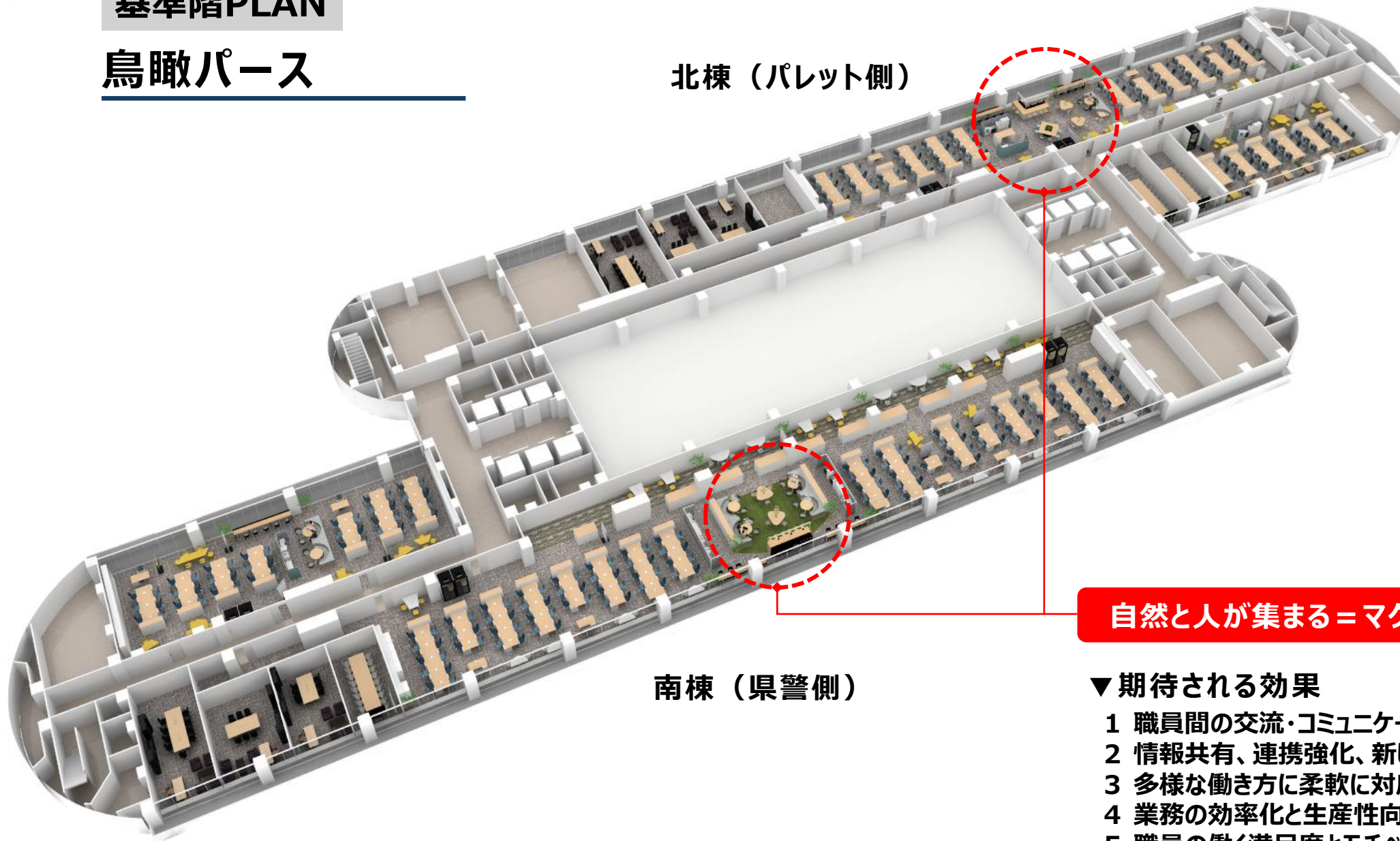
機能エリア

打合せスペース

基準階PLAN

鳥瞰パース

北棟（パレット側）



南棟（県警側）

自然と人が集まる＝マグネットスペース

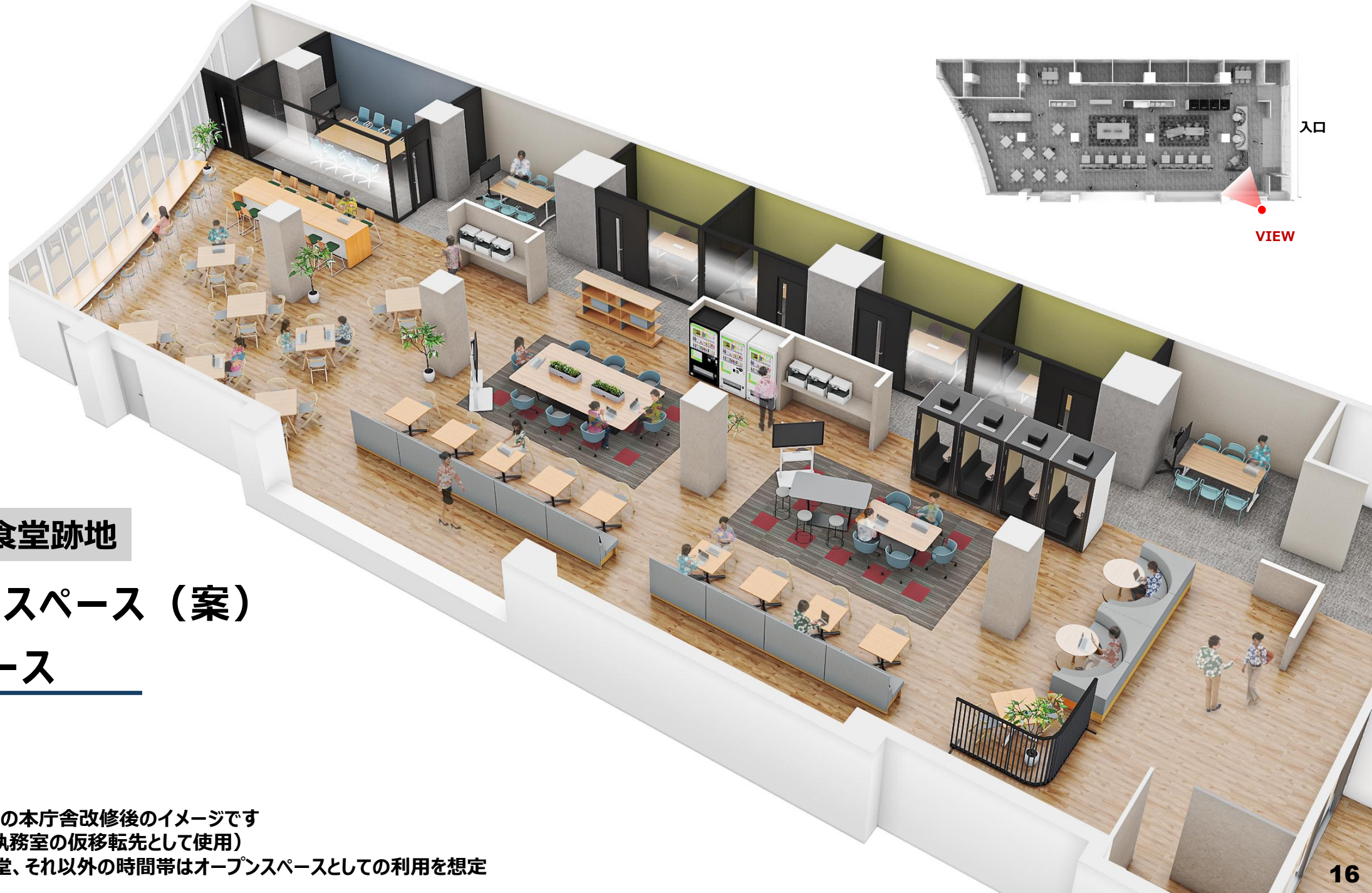
▼期待される効果

- 1 職員間の交流・コミュニケーションの活性化
- 2 情報共有、連携強化、新しいアイデアの創出
- 3 多様な働き方に柔軟に対応
- 4 業務の効率化と生産性向上
- 5 職員の働く満足度とモチベーション向上

※各部局へのヒアリングにより、スペースの活用方法を決定します

執務環境の改善

ーオープンスペース（案）のイメージー



地下階 食堂跡地

オープンスペース (案)

鳥瞰パース

※R12年度末予定の本庁舎改修後のイメージです
(改修期間中は執務室の仮移転先として使用)
※ランチタイムは食堂、それ以外の時間帯はオープンスペースとしての利用を想定

地下階 食堂跡地 オープンスペース (案)

▼ 期待される効果

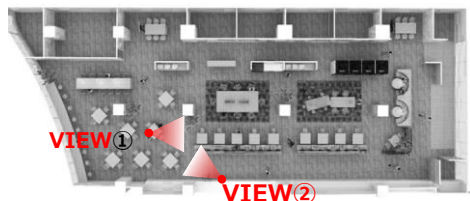
【県庁内部のつながり】

- ・職員間の交流・コミュニケーションの活性化
- ・部局間の情報共有、連携強化 → 新しい取組
- ・Web会議など多様な働き方に柔軟に対応
- ・業務の効率化、生産性向上 → ワークライフバランス
- ・モチベーション、帰属意識の向上 → 人材確保

【外部とのつながり】

- ・県民、民間事業者、関係機関等との協働・共創の推進
- ・地域のニーズに応じた施策の展開
- ・新しい価値の創造、イノベーションの創出

- ✓ 持続可能な組織環境
- ✓ 県民サービスの質の向上
- ✓ 社会課題の解決



VIEW ①



VIEW ②

